

参加会議・コース名称

仔稚魚の種同定に関する技術習得

■ 派遣中の活動と成果

〔派遣中の研究実施状況とその成果を記載してください。具体的な研究内容・方法・成果については、今後の自身の研究の推進を考慮の上、公開して差し支えない範囲に留めてください〕

形態学に基づく仔稚魚の種同定は一般に外部形態、計数形質および計測形質に基づいて行われるが、仔稚魚期は同一種でも成長に伴い形態や形質が変化し、さらに判別形質が明瞭でない事も多い。特に環境変動が著しく、生物相の北上や生態系の構造改変が示唆されている極域において、「何時、何処でどのような種が出現したか」という情報は基本的かつ重要であり、採集試料の種同定には後世への責任が伴う。そこで派遣者は今渡航で、北洋の仔稚魚分類に関する国際的な第一人者に直接の指導を賜り、外部形態に基づく種同定に関する技術を身につけると同時に、種同定に関するマニュアル作成を行う事で今後の北極研究に寄与する事を目標とした。

平成 31 年 4 月 8 日から 4 月 13 日までの期間において、アメリカ海洋大気庁 (NOAA) アラスカ水産科学センターを訪問し、北洋の仔稚魚分類に関する国際的な第一人者である Busby 氏から形態学に基づく仔稚魚の種同定に関して直接の指導を賜った。訪問期間中は先方が所有する試料を参照に、極域に出現する可能性が高い種について各種の形態学特徴および類似種と比較した際の判別形質について学ぶことができた。訪問期間は非常に短いものではあったが、10 科 23 属 39 種もの仔稚魚に関する知見について、既出の知見だけでなく論文未記載の知見についても得ることに成功した。今後は得られた知見をまとめ、同定マニュアルを作成する予定である。



図 1 作業風景



図 2 ホッキョクダラ仔魚

■ 派遣支援期間中の研究発表・受賞・アウトリーチ活動

[派遣中に学会等での研究発表・受賞・アウトリーチ活動があった場合、概要を記載してください。本若手派遣事業から旅費または参加費を支給したもの（科研費等、他の事業予算から経費を支出していないもの）が対象です]

派遣支援期間中に研究発表等を行っていないため、記載なし

※図表・写真等を含めて構いません。本様式を使用する場合は、分量の目安は1～2ページ程度です。